教祖140年祭 三年千日の 活動方針

教祖 の な 全教会心定め が た を 目がどう の達成 に

◇全教会布教推進月間 終了◇

-つに 世界たすけの 歩みを進めよう

をテーマに、9月は交流布教、大教会にをいがけ、

全教一斉にをいがけデーを勇んでつとめさせて頂いた。



瀬戸

現在の天理教青年会本部

0

陽

大教会の HP がご覧になれます! 月報には掲載されない写真もいっぱいです! -度ご覧下さい♪

ます。

私共を始め教会長、

拝聴させて頂き、



発 行 所 天理教網走大教会 布教部出版広報掛 〒093-0073 網走市北3条西6丁目 TEL 0152-43-2227 FAX 0152-44-2227

大教会9月の月次祭は、

青 年 あ ら 先生 き とう り

本部 東大教会・内山分教会長) きとうりよう講話」 続き参拝場にて「青年会あら i 委員 えし開催された。 月12日祭典終了後、 瀬戸陽 先 生 が青年会 引き

> くものについ そしてこれから先目指してい 話とありますが、 きたいと思います。 も交えながら、 日はあらきとうりよう講 取り組 て、 んでいること お話させて頂 私の実体験 現在青年会

ということの大切さは、 澄ます毎日を。 掲げている基本方針は でさきなどの原典でも多く語 誠を増やす」 神様は心を澄 〜ほこりを減 です。 「心を はます お Š

同は、 月末に控えている全 おたすけを常に心 全教会布教推

はまず、

どうし

て

か

るけ

n

べども、

ちょ

っと青

祭主のもと、

執行された。

大教会長は祭文で、

の御守護に御礼申し上げた後 てぢばの理を頂戴させて頂き ますこと心より御礼申し上げ ロ午前9時30分から大教会長 あらきとうりよう講話を 瀬戸陽一先生をお迎えし 青年会本部委 お話を通し 親神様 用 間の最中でありますの うたを唱和した。 参拝者は共に勇んでみかぐら りのてをどりがつとめられ います」と奏上した。 と伝えさせて頂く所存でござ えを一人でも多くの方の胸へ この世を治めて頂く真実の教 教一斉にをいがけデーでは て頂き、 に置き日々のつとめに励ませ をいがけ・ その後座りづとめ・ <u>+</u>

「祭典終了後、

ょ う 講 年 たいと思います。 という経緯をお話させて頂 青年会がこの基本方針をも に活動することに至ったの ・ます。 本日は れる方もいらっしゃると思 会っぽくない

よう、 活動を展開してきました。 きとうりようだと思います。 様々かもしれませんが、 先生方は、その当時の年齢 踏み入ったことのない未開 に道を広げて下さった先人 土地を切り開くあらきとう まで様々な基本方針のも 青年会といえば、 大理教青年会本部では、 まさにこの北海道 まだ あ 0 誰 は 0 地 ŋ

れば、 戸 祭の頃は 5 という、 起こそう」。 よしたの 、数が大体それくらいであり 大きな動きだったのだと思 おう! 々ににをい から十年前、 0) 挑戦」。 前だと、 当時の日本の家の数 で、 |千万軒にをい 「たすけの渦を巻き そういうもの もう少し遡って、 もっともっと遡 を 日 かけさせても 教祖百三十 「世界たすけ 本 すべ が て げ 0) 年

らっしゃるのでは時を経験されてい ます。 先生方の中にも、 では いる方も への挑戦」

い当

そうなんです。青年会はこれまで、ずっと布教おたすけの側面をより色濃く前に出して活動を展開して参りました。 また、先生方の中には前回の百三十年祭をよく覚えている方も大勢おられるらっしゃる方も大勢おられる が勝負! 一人でも多くの人をおぢばへ、 一人でしょうか。全教をあげて、 る基本方針や活動です。すべて布教、おたすけに関す

網

走

て頂いた時 ですので私も、 う!」なんて、なっている。 布教に歩かせて頂 の日駅ではじめて会った人に いた時なんかは、もうそので、布教の家に行かせも、にをいがけが大好き 勢いをもって へ帰りましょ いており

ルス ました。そうです。 しまうような出来事が起こり ら約五年半前。 べてのことが の大流行です。 世界を変えて スト コロ ナ ップ ゥ イ

山大亮様は、自身のこれまでない。その時に青年会長・中て、思うように身動きもでき ない。その時に骨毛できて、思うように身動きもでき を得て、 や、 ことに気づかれた、 お道全体を振り返る機会 大きくは次の二つの とお話下

の信仰 さって 心の信仰から、「日常」中まず、一つ目が「行事」 \sim いるんです。 心中

17らこと自体が、信仰してわれたりして、その行事に参われたりして、その行事に参えていることに追えているよ! ん。しかしながら、段々と、えているわけではございませ決してそれを後ろ向きにとられぞれの行事は素晴らしいし、 らったり、信仰的そのこと通じて、 いくみ 事があります。もちろん、お道の中にはたくさんの 5 本来は、そういった行事は、があったのかもしれません。 いるというような気持にさせ加すること自体が、信仰して 7 く為に たり、 まっている、そんな部分 ?にあるもの。より日常それを日常に生かして 信仰的な気づきを 勇ませても の行 そ

だった気が輝くれ ろう ものになるも

大変多くなってる中でも、働か 長様はもたれ

「日々」である、という気づきを深める機会としての行事はもちろん大切ですが、 信仰はを深める機会としての行事はか? と言ったら、決してそか? と言ったら、決してそ か? と言ったら、決してそなかったら、信仰できないのいている人が行事に参加できしかしながら、そういう働 減って 、ます。

ろうか。そんな疑問を青年会てしまっている部分はないだる=信仰という、目的になっだった行事が、それに参加すだのたの事段

ているようにも感じます。す。道専務者は大分と多くなってきたように思 、働かれている方が特に、お道を信仰な がす

りますが、たとえば布教する「伝える」から「伝わる」です。「伝える」から「伝わる」です。のようでする」です。「伝える」がら「伝わる」です。

 \mathcal{O}

ので す。 する

して

嗅ぎ取る うより をいを自分か 我々は、

生き方に自信を変化させを身に着けて、それに基での信仰が深まっていき、対話を繰り返すことで、

ました。かしものいかでであり、をテーマにした問いというで、自身を繰り返すことで、自身を繰り返すことで、自身を繰り返すことで、自身を繰り返すことで、自身を発力を表する。

いでしょうか。ら醸成されていくよ 以外 時だけではなく、 この二つの気づきは、 の時、 日常の生活 も 0) では

な

うに感じます。

そして、

教えに基づく

生

いく歩みをお示し下さったようよふぼくに段々と近づいてりよふぼくに段々と近づいてくこと、またそう努めていく教えに基づく生き方をしてい

よて敵くい

か しもの・ か りもの の 教え

催だったんです。 神殿で開催されました。各分三年ぶりに青年会総会が本部 会三名と対象者を絞 コロナが落ち着きか今から約三年前。 かけたころ ちょうど っての開

れま 総会での青年会長様のご挨拶 『私はこの三年間、 中で、 次のようなお話をさ ゕ

身に着ける、ということが人としてのよりよいにをい をいを自分からかける、と」という言葉を考えた時に、しかしながら、「にをいが のものですよね。そうりも、相手方が自然と よりお道の み道の そう 大を

切になってきます。 それは、 布教に歩 かしろそれ かしろそれ

たくのと

です。』いうことが大切だと悟

先ほどの二

つ

の気付

きは、

は日々という点で大きく共通 いるんです。 信仰

しもの・かりもの」に基づ方の「教え」とは、特に「

挨いかき

その、 第96回天理教青年会

て、考え方を百八十度変えてもの・かりもの」の対話によっ

●心を澄ます毎日を

拶での趣旨です。

た生き方だというのが、

わったんです! 本当に信す! こうやって日常が変感謝できるようになったんでとか、毎日の何気ないことに 仰ってありがたいわったんです! いで

浮かべて過ごす日々、またそたち素敵だと思うんです。 青年会員ではなくとも、今日改めてこのおたすけ願いを記かりの為に、10月25日、またかりの為に、10月25日、また大祭までの日々を、心を澄ま大祭までの日々を、心を澄ま 心を澄ます日々をより力強いいを分かろうとする日々は、の出来事を通じて、神様の思 を祈る、 提出し、 もの ます ž しかしながら、このいせて頂きます。 にしてく して、 毎 して、その人のたすかり、その日にパッと書いて、毎日を通らせて頂くお互かしながら、この心を澄 だけではなく、 'n るのではな 神様の思 ぜひ

●たすかりに向

でし

た身上がちな信者さんとかがけで出会った相手とか、よ普段の私だったら、にを しかしながら、実際にそういった方々の名前をそういった方々の名前を

普段の私だったら、にをいいう話になったのです。 たすけ願を記入して、 の青年会でも、 の名前を書 実際に とか。 ま

の三項目を記入し 送る我々にとって、 心を澄ます毎日 大切なこ

します。

分かろうとすること」ではなかれていませんが、たすかって欲しい人を通じて、またそこからお見せ頂く様々な出来まからお見せ頂く様々な出来のおたすけ願には書 いでしょうか。 分かろうとする? 事を通して、「神

は、 何の

かりとお伝えしたいのです。いうことを今日の機会にしっ践できる基本方針である。と 持が難しいなどの課題も抱えています。しかし、「心を澄ます毎日を。」は、どんな環ます毎日を。」は、どんな環 難し は形に表しにくく、 難しい、モチベーションの維は形に表しにくく、活動化がたしかに、求道面での活動 りとお伝えしたいのです。うことを今日の機会にしっ

走 月 報

立教188年(2025.令和7)10月

を。」なんです。

り前ですが、働いて の前ですが、働いて が、働いて かるとい であるとい であるとい 連専務の方も、どんな立場のり前ですが、働いている方も、さらに言えば、信仰は当たとして大切なのだと思います。

日を。」なんです。本方針である「心を澄ます毎現したものが、まさにこの基かなうものにしていく歩みを

ヤ教、おれ ?軒にをいがけ」は、の渦を巻き起こそう」 かが

コロナ時代を経て

そこから時は流れて、 今 か

●心を澄ました先には何があるのか。

天理教青年会総会について中庭で開催されます、第99 話させて頂きます。 この総会のテー マは 『たす お 回

ているか。 これ

ているか。それこそが信仰者信仰に基づいた生き方ができの瞬間まで、24時間、36日を、

か

り」です。

起きた瞬間から夜眠るそ

して

いく。

自分の生活、生き方

て

けるように。教え

いけるように

れるよう

てお話しました。この流れを「心を澄ます毎日を。」につい先ほどまで、私は基本方針 ませ 感じる方もおられるかもし お聞きになられた方は、 というテー かしたら、 急に「たすかり」 マが出てきたなと もし n

会での青年会長様のご挨拶には、本年1月の青年会本部例 うなご挨拶でした。 端を発します。それは次の し かしながら、このテ V

た先には、必ず不思議なたす かりを見せて頂けると信じてかりを見せて頂けると信じて 私は心を澄ます毎日を通っそれは不思議なたすかりです。 あるのか。 心を澄ます毎日の先には何が ために心を澄ますの 結論を先に言うと、 とは決して目りのです。』 か

てきた、とお話して毎日がより楽しいよ ずかりという 標があって**、** 人をたすけるという大き的ではない。やはり我々 た。 で定まってから、 、とお話し下さいよより楽しいものにな いう目的 楽しいものになっから、心を澄ますがら、心を澄ますの不思議なたい。から、心を澄ますがら、心を澄まなたがらがら、心を澄まなたがない。 ま

節に「あしきをはらうてたすけたまへ てんりわうのみこかり、自らのたすかりを願うその前に、自分の胸三寸を払その前に、自分の胸三寸を払っ手振りがある。たすかりを願う とえば、みかぐらうたの第一ていく、ということです。ために、まず自らの心を澄ましめに、まず自らの心を澄まし とが を真剣に澄まして 欠か せない と感じるの いくとうこ

おたすけ願カードについて

この

お

第99回天理教青年会総会では、お原いのおつとめをつとは、おたすけ願に、たすかって預きたいのか、またその為に自分が何をできるのか、を記入して、神様の前に供えさ記入して、神様の前に供えさい、お願いのおつとめをつと

しかしながら、このおたすけ願を通じて、神様の思いにはじめて本当にたすかって欲はじめて本当にたすかって欲はじめて本当にたすかって欲くことができたんです。 では、 とができませんでした。欲しいという気持ちをは 欲しいという気持ちを持つこ不足の心が勝ち、たすかって 5 のことでありました。それ 、その身近な人に対して、は、自身の成人の未熟さかい人の名前は、身近な家族思い浮かんだたすかって欲思い浮かんだれまかました。それまないがありました。 い人の名前は、

①たすか ③あなたにできることは ②たすかって頂きたいこと ですか? このおたすけ願いは、 って欲しい方の名前、 な

耳を傾けられる。

しかしなが

身の回りにお見せいただ

のことならば、

神様の思いに

かけていた気がします。 今までの私にはここが少し このステップがとても セージを受け取ろう 心を澄ま 心のほこり 自分 を願 け願いを通じて、 最後に、 の先に「不思議なたすかり」 私自身このおたす

小さな光が差し込んできたよ 自分の心をちょっとずつ変化 ッセージを読み取りながら まだまだ先は長いですが、 神様からの ほんの少し、

立教188年(2025.令和7)10月

めるはずですよね。

青年会長様は「心を澄ます

神様の思いを分かろ

とする毎日である」とも表

神様の望むもの

もうすぐ教祖140年祭 さあ!別席団参 11月30日 斯道会

仕上げの年 諭達の実動十万件 >年祭当日をうれしい心で迎えよう~

立教188年秋季大祭 詰所行事日程

07:00

07:30 秋季大祭 詰所発

16:00 逸話劇(布教部)

17:15 夕づとめ

18:00 夕食

12:30 別席(午後席)詰所発

(午後) お買い物送迎 (希望があれば実施)

10月25日

10月26日 回廊ひのきしん・朝づとめ詰所発

05:45 朝づとめ 詰所発

07:00 朝食

08:30 別席(午前席)詰所発

09:30 教祖140年祭「特別展示」南右2棟 詰所発

11:30 本部お願いづとめ参拝 本部おさづけ取次

12:30 別席 (午後席) 詰所発

13:30 西境内地草取りひのきしん 詰所発

17:15 夕づとめ 詰所発

18:15 親睦会(詰所食堂)

人のたすかりを願い、それぞはもちろん、多くの方々が、 る網走に繋がる青年会員さん 心を澄ます毎日を送らせて頂 この10月25日の総会、 あの人の為におぢばへ。 りを見せて頂けるよう、 本日ここにおられ 不思議なた そして

て欲しいと願うその人を通じ

自分がたすかっ

神様が我々に伝えたい

神様からのメッセージ。

をさせてやりたいという、

けあってもらいたいとい

くことは、

すべて陽気ぐらし

全教会布教推進月間

ょ

う

つに世界たすけの歩みを進 年祭活動の最中 1日よ

ようぼくがさらに強い意識を

けをさせて頂く運びとした。日(土)13時より、にをいが

当日は、

老若男女を問わず

日(土)13時より、にをいが網走地区ようき会では9月27

とのお話しを受け

をいがけ強調の月」を、 は、例年9月に設けている「に へ教えを広めようとするもの もって布教活動を行い、 と今年は「全教会布教推進月 教祖14年祭に向けて、 本部布教部(土佐剛直部長) 全教 世界

32名の参加者の下、大教会から網走駅までの神名流し、駅

進んだ布教内容を目指してい る。 各教会の現状をより一歩前に 会が拠点となり、 一人でも多く実動できるよう 網走大教会では、 ようぼくが 昨年の交

ち、戸別訪問や神名流し、路まえ、教会長夫妻が先頭に立流布教の取り組みの成功を踏 が活発に繰り広げられた。 傍講演などのにをいがけ活動 て実動に拍車をかけている。いがけに回るなど勇ませ合っ



(前期)

真柱様の声に少しでもお応

O 誠 陽 直 直 **修** 養 綱 光 轄 轄 科 網誠網旭常直直直席常名

加者の下にをいがけができ、

大勢の参

八 菅 桐 武 武 者 安 宮 新 橋 相 山 勝 勝 捷 真 沙 典 **6** 桃 來 義 典 邦 真 子 弓 加 子 栄 花 武 暉 徳 子 夫 琴

人祭主のもと執行され自宅にて瀨川定自・喜 目宅にて瀨川定自・直轄世話5年祭が9月14日、網走市の▼直轄所属、鈴木敏明の霊様

大畑重光の霊様 の霊様5

(9月11日現在)

実動件数 177,649

月

大教会一斉にをいが 役員会会議。連絡会。 きとうりょう講話。

18 日

神殿上段、

廻廊すす払い

17 日

網走支部婦人会例会

日まで)

15 日

修養科事前研修会よ

の伝道日

ろこびセミナー

17

り。(15日まで)縦

幌方面直轄信者まわ

21 20 日 日

こども会

の伝道日

23 目

会長、おぢばがえり。

24 日

本部神殿奉仕

つとめる

詰所23会

10 日 9 日 6 日 12 日 日 月次祭。青年会あら 教祖14年祭網走おた 役員会会議 網走支部例会会場 縦の伝道日 おはなし食堂 役員会会議 教部例会。育成部部 すけ委員会会議。 婦人会例会

布

立教188年人のご守護心定め														
初席者	ようぼく	修養科修了者	教 人											
51 _名	23 _名	18 _名	6 _a											
	成	果(红	月末現在)											
16 _a	6 _名	4 _名	0 _名											

30 目 29 日 28 日 27 日 26 日 デー 参拝、 会長、 大教会一斉活動日。 全教一斉にをいがけ 本部月次祭遙拝。 みそか会 直轄世話人会 神殿奉仕つとめる 藤山重善役員、本部 神殿奉仕つとめる 結城和広役員、本部 長、教区主事会出席。 (30日まで) かなめ会出席。 本部秋季霊祭

> 代会長・桐谷教子様の霊様が 執行された。 時より神殿の儀が行われ、 おどり終了後、 秋季霊祭は9月13日午前 この度、 祖霊殿の儀が 陽泰初 て

新たに合祀された。

実	村井	賛	篤志	小松 篤	小	会	司
直治	奥野	者	重	Ц	菔	ファ	拮
善広	桐谷	扈	李	1	Ę		
正志	三幣	者	長	教会	大	主	祭
直美	栗林	子	祐子	瀬川	弓		胡
り子	丸山の	子	大代	三幣美代子	線	味	三
穂子	新川千	入	長夫	大教会長夫		琴	
旬治	澤田	正	徳正	栗林	鼓		小
知幸	清水	人	雅	大山	ね	りが	す
浩二	遠藤	善	重善	藤山	鼓		太
道彌	在原	長	会	大教	木	子	拍
眞明	遠田	志	篤志	小松	ん	やんぽ	ちゃ
正美	新川	志	敦志	三幣		笛	
春雄	三澤	広	明	遠藤			
正教	真壁	文	敏文	小針	方		地
実	村井	志	正志	三幣			
也加	桐谷沙	子	美	三澤由美子			
真弓	菅原	子	聖子	青山		て	
有子	三幣	子	裕子	澤田		を	
直治	奥野	広	善広	桐谷		ど	
康幸	永井	自	定	瀨川		Ŋ	
信喜	清水	広	和	結城			
半	後	半		前			/
							1

網

走

14 13 日 日

秋季霊祭

会長、大畑重光、啓

子の霊様の年祭祭主

つとめる。会長、

札

	_	工	牧1	88	3(5	和	17) 年	人	、 の	ごだ	P護成	果	表	(9	月	末班	見在	E)	9月		月 月		9/	9/12金	
Ì				żπ	中	ŕ	4欠	老行		参者			≱п	н	ŕ	加欠	老行		参者			 〈参拝者	数 約9	0 人〉		
	教	会	名	初席	席	ようぼく	修卒	教人	当月	累計	教	会 名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	当月	累計	神殿講話	賛	者	指図方	扈者	祭主	_
	直		轄	3	15	2			15	93	誠	央						1	17		蒸 浩二	大士 痢	結	斎瀨	大	祭
İ	美		幌							3	常	道							2		藤遠三山藤澤	井野	城	藤川	教	
Ì	女	満	別	1	1				2	39	徳	道		3				1	30		香 洪 夫	: 古	≠ n	₩: ↔	会	員
ł	斜	里			_					1	満	金		1					3		重浩春 善二雄	美 直 住実治	和広	芳定	長	
Ì	釧		厚				1			11	網	安		1					1	胡三	小す太	h/ı +	地			_
Ì	武		士							8	オオ	トーツク	2	2					11	的二	小 g 瓜: 	用りや	地			1
ł	常				1				10	41	網網	徳							2	味琴	が	子ん笛		てを	どり	/
Ì	旭		網	1	2				4	16	栗	沢		6	1	1			20	弓線	鼓ね鼓		方			
Ī	御		料		2	1				5	徳	元		1	1				11	澤丸藤		黑 五 结	三小瀨		十二十	lite
Ì	東	藻	琴							0	網	盛							3	田山山	栗藤三木山幣	^{宰 凡 稻} 田 山 城	二小 _網 幣針川	藤新大井川会	八利八 山川教	座り
Ì	陽		光	1	1				2	18	網	新	1	5		2			12	の 裕り道	油 重正	中一和				ブレ
Ì	呼		人						1	9	網	葉							1	学学学	徳重正, 正善志	和德広	志文自	道知夫 惠子人	人人長	め
Ì	誠		陽		1					4	網	陽						3	11	斎三桐	超清津	西浩小	藤三結	- 事二山	土左丰	
Ì	網		栄		1					4	誠	綱	3	7	1			1	42	藤幣谷	桐遠清谷田水	林藤松	服 山幣城	青三山 山澤﨑	村原山	前
Ì	實		東	2	2				1	32	網	次	1	5				3	12	美沙 知代也	・ 差旨信	徳田笙	重正和	由 聖美蔦	光道正	
Ì	東		網	1						7	網	昇							8	学学茄	善眞信?	正広志	善志広	字字代	正彌博	半
Ì	宗		稚						1	14	勇	走						2	12	瀬三菅	永三澤	旨宏綱	二村丽	眞新栗	遗害新	
											詰	所							148	川幣原	井澤田	壁田川	三村奥 幣井野	壁川林	藤水川	後
	礼		席		中	馬			うほ		修			教	人		児児	参	<u> </u>	祐有真	康素句	正光定	勢 店	千 香穂直	浩知正	
-	当	1	成果 1		<u>当月</u> 10		果 57	当月	1 1	成果 6	当月		: ≌ 1	扫	成:	果	<u>当月</u> 4	7 5	成果 651	学学	康春旬	数広阜	敦 直 志実治	織子美	三幸美	半
			- 1	0	10	1	JI			U	1	4	+		I		4	1	UUI	1						

秋 季 霊 祭

祭

座りづとめ 役

前 割

半

後